

## 大 学 院 特 別 講 義

（医 歯 学 先 端 研 究 特 論） （生 命 理 工 学 先 端 研 究 特 論）

（医 歯 理 工 学 先 端 研 究 特 論）

瀬尾 拓史先生をお招きし、下記により大学院特別講義を行いますので、多数ご来聴下さい。

瀬尾先生は高校生のときから CG 映像に関心をもち、科学に基づく映像の作成を志して医学部に進学し、学生時代に裁判員制度に用いる 3DCG の作成を最高検察庁に提案して、裁判員裁判第 1 号事件の証拠資料となる 3DCG を制作しました。この功績で東京大学総長賞・総長大賞を受賞されています。2011 年には、研修医として勤務する傍ら、株式会社サイアメントを設立し、現在は同社代表取締役として活躍されています。これまでに大学院特別講義をして頂いた講師の中では最若手にあたるかと思われます。学部、修士、博士課程の学生、そして、若手医療従事者の方々もぜひ、積極的に出席してください。

### 記

**演 題：**3DCG が医療を変え…る？

**講 師：**瀬尾 拓史 先生（株式会社サイアメント代表取締役、京都造形芸術大学客員教授）

**日 時：**平成 29 年 6 月 8 日（木）

17 時 00 分から

**場 所：**M&D タワー 2 階共用講義室 I

**講演要旨：**ヘッドマウントディスプレイを使って VR で臓器を再現！格好良さそうですね！！

3D プリンタで実物大の臓器模型を作って勉強！楽しそうですね！！

…意味がわかりません。

まずそもそも、医用画像からの特定の臓器の正確な抽出もまだまだ発展段階にあります。抽出しやすい臓器もありますが、患者さんごとに構造や状態の異なる臓器を（妥当な範囲で）正確に抽出するのはそんなに簡単ではありません。

また、仮に臓器の 3DCG データを作ることが出来たとして、VR でただ周りから眺めるだけで十分に有用な情報を得ることが出来るのでしょうか？

3D プリンタで出力した模型は、一度切開したり切断したりしてしまうと、元の状態には戻れません。各臓器の典型例を量産するならまだしも、患者さんごとの臓器模型を 1 つ 1 つ手間暇かけて作る余裕があるのでしょうか？

CT や MRI などの医用画像を利用して 3DCG の技術を使うためには、とても長い道のりがあり、何が出来て、何が出来ないのか、出来るとしても、何に時間がかかり、どんなことなら短時間で出来るのか、というようなことを少しでも知っているだけで、3DCG×医療の世界を現実的な問題として考えることが出来るようになります。

3DCG で出来ること、出来ないことを、具体的なデモも交えながらお話したいと思います。

**【連絡先】病態代謝解析学分野 畑 裕（内線 5164）**